

安藤先生・子供の城協会の皆様
お元気ですか
奈良の米田です

先日、お電話でご報告させていただきましたが
息子太陽が1日、県立五條高校での副学籍課程を修了し終了証をいただきました。
「障がいのある生徒の高校でのクラブ活動の保証」として日本ではじめての研究生として
通常通う養護学校以外に県立高校に副学籍を頂き硬式野球部で3年間過ごしました。

中学3年生で軟式野球部を引退後、握るボールを硬式球に変え「高校でも！」と意欲を
見せる息子に親として一個人としては教育界の制度までは立ち向かえず、ボールを握って
眠るむすこに「ごめんな・・・」と進学後野球部員としては続けられない事実をどう
伝えるか困惑の日々でした。

安藤先生のお言葉

「なるようになる」を心中でなんどもつぶやき
不安いっぱい、奈良県知事・奈良県教育長の胸に飛び込んだのはもう遥か昔のことの
ように感じます。

「副学籍による研究生」とは名ばかりで、入部後も本校生徒ではないので野球部員として
スポーツ保険に入れないだとか、全国高野連に2学籍があると登録できないなど、
半分邪魔者のようにグラウンドに入れてもらえない日々が続きました。
ここでまた「なるようになる」現象が太陽にはたらい、保険会社に交渉してくださる
方が出たり、他高校の校長先生が高野連に話し合いに出向いてくださったり、私達では
到底出来なかった諸作業を助けて頂き1年生の6月に正式野球部員として彼の野球生活は
継続となりました。

60名を越える部員とのコミュニケーションや先輩への礼儀など中学とは違い、かなり
本格的でしたが持ち前の明るさと芸達者が笑いと興味で太陽を囲む人数を日に日に増やして
いきました。

後輩も沢山でき最後の夏の大会では高野連から2度目になる始球式の機会を頂き
テレビにも特番として出させていただくなど先述しました「困惑の日々」が嘘に
思える日が待ってました。

3月1日、本校の卒業式の1時間前に太陽一人のために県教育委員会から来賓者が
きてくださり副学籍の修了式をしてくださいました。
本校卒業式でも紹介され嬉しそうに挨拶をしました。

その後の野球部卒部会でもチームメイトから祝福をうけキャプテンから
「俺らの可能性の代表や」と言葉をいただきました。

ダウン症のある子供を持って以来、それを後悔しないように、それを重荷に感じないようになど常に自分の心構えばかり意識していた自分でしたが
ダウン症のある太陽の生き方から ダウンの子供を授かれてほんとうに幸せだと心から感じます。

それとこの子らが持つかもしれない？ と思っていた引き寄せのパワーは
実在すると確信します。

乳児期・幼児期に子供の城協会の皆様にお出合いでき、その場でご縁を頂いた保護者の皆様から頂いた不思議な力が今の私達夫婦の中に生きております。

3月14日 太陽は本学籍のある養護学校を卒業します。

2つの高校を卒業する意味

それは卒業した本人でないとわからないと思いますが、副学籍という制度が大阪でも京都でもどんどん広がってその意味を人生で実践してくれるダウン症のみなさんが全国で活躍してくださる未来に期待します。

昨今、私の住む奈良県五條市でも新たなダウン症の赤ちゃんの誕生を耳にします。彼ら彼女らが高校生になる頃にはいろんな場所で、いろんな事に普通に参加し普通に評価され社会に紛れていく時代になるんだろうなとうれしい気持ちになります。

太陽、4月からは奈良県大和高田市にあります「will japan」というリサイクルの会社で一般就労者として働きます。

初めての電車通勤ですので不安だらけですが またここでも素敵な出会いや出来事を見せてくれるような気がします。

誰かの名言にありました

「間に合わないことはあっても、できないことは何もない。」

太陽の人生列車に私達も同乗してどんな未来がまってるのか楽しみに過ごしていきます

ダウン症児子育ての一番大切な時期にお出合いでき、お力をいただいた子供の城協会のみなさまに 心から感謝いたします
ほんとうにありがとうございました。

どうか皆様 お身体ご自愛くださいませ。 ありがとうございました

米田篤也 真美